

1 題 材 曲の特徴を生かして

2 目 標

- 音の重なりや和声の響きを感じ取り、音楽活動への意欲をもつことができる。(関心・意欲・態度)
- 曲が伝えようとしている思いを理解し、工夫して表現することができる。(音楽的な感受や表現の工夫)
- 楽曲を特徴付けている要素に気をつけて歌うことができる。(表現の技能)
- 音の重なりを聴き合ってそのよさを味わうことができる。(鑑賞の能力)

3 指導観

- 本題材は、学習指導要領A「表現」(2)ーア「歌詞の内容や楽曲の構成を理解して、それらを生かした表現の仕方を工夫すること」イ「拍の流れやフレーズ、音の重なりや和声の響きを感じ取って、演奏したり身体表現をしたりすること」(3)ーア「呼吸及び発音の仕方を工夫して、豊かな響きのある、自然で無理のない声で歌うこと」をねらいとしている。

高学年における音楽の表現は、心の中の様々な思いや考えを、音を通して表出したり伝えたりすることが大事なことになる。また、中学年までに学習してきたことをさらに発展させ、リズムや旋律はもとより、音の重なりや和声の響きの美しさを感じ取り、基礎的な表現の能力を高めていくことが必要となってくる。そこで、合唱を通して音の重なりや和声の響きに気をつけながら、歌詞にこめられた願いや思いを歌声で表現する活動を設定した。

ここで取り扱う教材「つばさをください」は、児童が気持ちをこめて歌いやすい歌詞である。また、フレーズの流れや強弱を考えて表現を工夫したり、響きを感じながら合唱したりするのに適材である。

このような学習活動を行うことは、気持ちをこめて表情豊かに歌ったり、思いを歌にこめて表現する工夫をしたりする態度を育てる上で大切である。また、曲想表現に合う呼吸や発音の仕方も工夫して、基礎的な歌唱表現の能力を高める上で意義深い。

- 本学級の児童(男子21名、女子18名、計39名)は、朝の会で元気に歌うことができるようになってきている。楽器を扱う活動に高い関心をもっている児童が多いが、リコーダーの演奏を苦手としている児童が数名見られる。児童はこれまでに、歌詞全体の意味を考えて歌ったり、拍の流れを感じて演奏したりする活動を通して、曲想に合った音楽表現をする感覚を身に付けつつある。しかし、それを自分たちで工夫して表現する力は、今後高めていく必要がある。
- そこで本題材の指導にあたっては、児童自身が考えた表現の工夫を十分取り入れることで、音の響きや音楽が伝えようとしている思いを感じられるようにしたい。

導入では、歌詞を見て情景を想像するとともに、合唱ができるように練習をする。音取りが終わってから一度合唱することによって友達と声を合わせる楽しさを感じ取らせたい。

展開では、歌詞に合った表現方法とはどんなものかを考える時間を設定し、それに合わせて自分たちの工夫したい点や注意するところをおさえるようにする。そして途中で聴く活動を設定し、他のパートのよいところを取り入れられるようにしたい。そうすることにより、クラス全体で工夫した合唱活動の楽しさを味わえるようにする。

まとめでは、全体合唱をして、一番最初に歌ったときの合唱とどう違うか比べる活動をする。気持ちをこめて歌う楽しさを味わわせることで、さらに音楽と触れ合っていこうとする心情が高まるようにしていきたい。

特に本時では、歌詞解釈をして作詞者の気持ちに共感することで曲のイメージを膨らませるようにする。そして全員で高音部と低音部の練習をし、全体合唱をすることで音楽活動への意欲を高めたい。

4 教 材

- 「つばさをください」 山上路夫 作詞・村井邦彦 作曲・赤尾 暁 編曲 4分の4拍子 変ロ長調

5 指導計画

- (1) 「つばさをください」 2時間(本時1/2)

6 本時の目標

- 歌詞の内容を思い浮かべ、曲想に合わせて合唱することができる。

7 指導計画

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	資料・準備
導入 (10分)	(1) 本時学習計画について話し合う。 ○ 準備体操 ○ 「ロックマイソウル」を歌う ○ 青空の写真を見て ○ 本時のめあて 「つばさをください」の歌詞を思いうかべながら合唱しよう。	○ 準備体操をすることで音楽活動に対する意欲を高めるようにする。 ○ 発声練習を兼ねて「ロックマイソウル」を斉唱する。 ○ 青空の写真を見せ、自由に想像させる。	CD 写真 めあてカード
展開 (28分)	(2) 学習の流れを確認する。 ○ 歌詞解釈 ○ 高音部と低音部の練習 (3) 「つばさをください」の歌詞の感想について話し合う。 ○ 歌詞の感想 ○ 感想の発表 (4) 「つばさをください」を聴き、高音部と低音部を練習する。 ○ 「つばさをください」の範唱 ○ 高音部の練習 ○ 低音部の練習	○ 学習の流れを確認することにより、見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ○ 歌詞の感想を班ごとに話し合わせ、歌詞の感想をまとめるようにする。 ○ 感想を発表させ、同じような意見にまとめることで、全員の気持ちがひとつになるようにする。 ○ 範唱を何度か聴かせることにより、目と耳で曲のメロディーを覚えさせる。 ○ 高音部の練習は、教師が聞いていて気になるところやつまずいたところを中心に行う。 ○ 低音部の練習は、高音部の音取りよりも難しいと予想されるため、教師が範唱して少しずつ練習していくようにする。	歌詞を書いた模造紙 楽譜を書いた模造紙 CD
終末 (7分)	(5) 学習のまとめをする。 ○ 合唱(録音) ○ 本時のふりかえり	○ 高音部と低音部に分けて合唱することにより、合唱の楽しさを味わわせるようにする。 ○ 低音部はピアノで音を取り、児童が自信を持って歌うことができるようにする。 ○ 録音することで次時の練習の成果と比較できるようにしておく。 ○ 録音した演奏を聴いて本時の取り組みを賞賛し、次時の学習への意欲が高まるようにする。	録音機器 MD